

平成30年度 こどもの木かけ・野のはな空のとり保育園 自己評価・学校関係者評価

◀ こどもの木かけ・野のはな空のとり保育園の自己評価 ▶

1. 基本理念・保育方針

|  |  |
|--|--|
| <p>■こどもの木かけ 2002 基本理念</p> <p>『汝らは、地の塩、世の光である』<br/>(マタイによる福音書5章第13節—14節)</p> <p>キリスト教の愛の精神を基とし、幼な子が、自ら生きる力を高め、豊かな個性を育むことをめざしています。こどもの木かけ（玉成幼稚園・野のはな空のとり保育園）では、0歳から就学まで一貫した保育方針にもとづき子どもの育ちに取り組んでいます。</p> | <p>■ 野のはな空のとり保育園 保育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の子どものリズムに配慮し、動的な生活空間・静的な生活空間を考えた保育環境を提供し、能動的な活動を育てていきます。</li> <li>・人の成長・発達の基礎ともなる、さまざまな場面や状況を受けとめたり人からの働きかけを受け入れたりする『うけいれる力』を育てます。</li> <li>・自発的に試しながら自らの取り組みを確かめられる『とりくむ力』を育てます。</li> <li>・「もの」「ひと」「じぶん」の相互の関係を意識して生活世界に働きかけられるように『むかう力』を高めています。</li> </ul> |
|--|--|

こんな子どもに育ってほしい…アルウィン学園のめざす子ども像

|   |
|---|
| <p>①生きる力の礎である「自らの力で探求し判断しながら人とのかかわりをとおした生きる喜びや自己表現が達成」できるように<br/>                 ②「ひとりひとりが違ってよい」興味や得意なことを伸ばし個性豊かになれるように<br/>                 ③あそびをとおして感性や知的能力・創造性・社会性を体得できるように</p> |
|---|

すべては環境から

|  |
|--|
| <p>子どもが主体的・自発的にあそび、学ぶために不可欠な環境構成は、心地よく過ごし、生活し、あそび「空間（場所）」環境と、充分にあそび、休息する充実した「時間」の環境、質と量が配慮された遊具や本物・良質な家具や調度品といった「もの（道具）」の環境が基本的条件であり、これらをうまく組み合わせるが保育者の役割です。同時に子どもとの豊かで温かなかかわりも重要なことです。保育者がこうしたかかわりをもとめ、高めるための人的な環境の一部でもあるのです。</p> |
|--|

2. 活動状況と自己評価

【基本的事項】（こどもの木かけ共通）

|  |
|--|
| <p>◆子どもたちが、自らの力で取り組む姿勢が育ち、周囲とのかかわり高め、育ちあえているか</p> <p>担任の保育者との信頼関係・愛着関係を形成し、子どもが成長発達段階に応じて、自発的に周囲の環境とのかかわり、もの（教具遊具など）とのかかわり、家族やすべての保育者とのかかわりを拡げていけるように意識してきた。その上で、他児を意識し、他児とその場を共有してあそびをたのしめるように援助してきた。</p> |
|--|

|  |
|--|
| <p>◆子どもたちに豊かな感性が育つようとりくみや自発的なあそびをとりくめるように保育をおこなってきたか</p> <p>環境が子どもの感性を育むことを考え、ひと、もの、空間、時間、どれもが気持ちよく、質が良く充実した環境であるように心がけてきた。特に今年度は自然が子どもの感性に与える影響に着目し、保育を行った。表現活動ではクレヨンや絵の具で、自らすすんで身体全体で喜びを表せるように意識して行ってきた。</p> |
|--|

【重点的にとりくむ課題】

|   |
|---|
| <p>◆新しい保育所保育指針の学びをとおして、園のコンセプト（保育理念・保育方針）を裏づけ、強化していく</p> <p>保育所保育指針の改定で、「保護者支援」の文言が「子育て支援」となった。保護者が子育てに喜びを持てるような支援が求められている。そのためにはまず保育者全員が、保育は楽しい仕事と感じ、園の保育理念を実践する姿を見ていただくことが何より大切と考えてきた。生活の視点で子どもの育ちを保護者とともに支えていくことを常に意識してきた。</p> |
|---|

|   |
|---|
| <p>◆キャリアパス制度に基づく職位・職務内容に応じた仕事の遂行を徹底する</p> <p>キャリアパス制度を保育園に適用させていく ・ 職位に応じた職務内容の周知徹底を図る</p> <p>それぞれの職位の役割を知り、自分の役割を理解して職務遂行を図る</p> |
|---|

クラスリーダー会議を月2回に増やし、リーダーとしてクラスや園全体の運営に参画する意識を高め、また職員員の保育実践力の向上に尽力してきた。  
 中堅職員も新人育成（フォローアップを担当）に協力することを通し、職位職階を意識して職務にあたることができた。

|  |
|--|
| <p>◆長期的な展望にたった厨房設備の改修</p> <p>厨房設備改修事業の円滑な実施のための準備を計画的に行う</p> |
|--|

スチームコンベクションオープンの導入により、厨房の作業効率の向上が実現した。このことでパート職員の勤務時間数の短縮が可能になった。

### 3. 今後の課題・取り組んでいきたいこと

- 1 OJTの重要性が増すなかで、日々の保育実践やクラスミーティングをとおして何気なく教えたり伝えたりしていることを、その場で流してしまわず、教えた側も教わった側も意識下におけるようにしたい。またそれをケーススタディや内部研修などに拡げ、全職員の学びとしていきたい。
- 2 プロジェクト活動は今後も継続していくが、その研究成果を、全職員がすぐに保育実践に活かせるような実効性のあるものにしたい。各職員から引き出した課題から具体的なテーマを絞り、学びと実践を特に意識していきたい。
- 3 保育園の急増により、こどもの木かげに入所する家庭の状況も変化しつつあり、保育園の卒園後は幼稚園につながらない子どもが増えてきている。幼稚園の子どもたちとの日々の交流を保護者にアピールすることで、木かげならではの良さを更に伝えていく必要がある。また、幼保一元化の実現のために、どのような形が良いのか、保育園ができることは何か、職員全体で意見を出し合い、考えていく。

### ◀ 運営委員会による学校関係者評価 ▶

#### 1 評価項目の達成及びとりくみ状況について

【基本的事項】  
こどもの木かげでは、目指す子ども像にむけて、0歳から6歳までの乳幼児期をとおして共通することを基本的事項としている。野のはな空のとり保育園では、乳児期の自発性を育むために、「心地よい環境」設定を最重視し、子どもたちの成長に合わせて日々柔軟に設定を変えている。環境は保育室や教員、食事などの物質的なものだけでなく、保育者という人的なものを高めることにも注力しており、子どもが安心して過ごすことのできる空気感ともいべき時間の流れを作り出すことに成功している。

【重点的に取り組む課題】  
10年に1度の保育所保育方針が改定され、「保護者支援」から「子育て支援」に変更された。園ではこれを、保護者の就労を支援するために子ども預かるのではなく、さまざまな事情のある家族が子育てをすることを支援する、という国の方向転換ととらえている。この変更は子どものこかげのずっと以前からの理念に整合していて、園自体の方向転換を必要とするものではない。しかし、この機会をとらえ、新保育指針を熱心に読み解き、自らの教育方針に照らして、保育現場に活かしている姿勢は、高い評価に値する。「生活の視点で子どもたちを保護者とともに支えていく」との考え方が、いかにも野のはならしいと感じる。保育者も環境の一部であるため、以前からOJT、ケースカンファレンス、定期的な縦横の会議、玉成幼稚園との連携など、人のつながりの強化を図っている。それに加え、職員の成長を促し、モチベーションを向上させるために、自らの職位を意識させている。

#### 2 今後とりくむ課題

来期も継続して、こどもの木かげとしての一体運営を図るべく、基本理念に基づいた保育方針の理解、職員の教育、日々の気づき事項の検証と共有を進めることに、運営委員会としても同意した。乳幼児期の保護者は、保護者として「新人」が多いため、保育園の動きかけは家庭における教育方針に大きな影響を与えるかもしれない。保護者とともに子育てにとりくんでいける保育者を育成していただきたい。

#### 3 総合所見

昨年からはこどもの木かげとして独自に学校評価にとりくんでいる。初年度である昨年は、まさに試行錯誤であり、評価の枠組みもない中でどうすれば園の活動状況を臨場感を持って伝えることができるかを議論した。園から、「キリスト教の愛の精神を基とした基本理念、保育方針、乳児期の保育のあり方、幼児期の保育のあり方」の流れを説明して頂くことで、運営委員会は理解を深め、園が目指す方向に同意した。その中で、日々の活動を基本理念・方針に沿って体系的に整理して示すことが、結果として職員のモチベーションを引き出し、こどもの木かげとしての一体運営をさらに推し進めることができるとの結論を得た。

2年目である平成30年度は、基本理念に基づいた保育の質をどのように高めたかについて説明を受けた。こどもの木かげの基本理念、乳児期に必要な育ち、環境設定の創意工夫について職員が主体的に参加し、共通意識を持つように計らい、子どもたち一人ひとりをクラス担任は勿論のこと、こどもの木かげ全体でよく見ていて、その子にとって大切なことは何かを考えて実践している。保育の質の向上についての決意と、子どもたちに対する深い愛情を感じる。

待機児童解消のためにいくつもの保育所が開園されている。単に差別化という意味ではなく、創始者アルウィン先生のこども教育の理想を守り続ける野のはな空のとり保育園「らしさ」を大切に、環境変化に対応した保育と、変わらない保育の両方を追求していただきたい。